

修 士 論 文 の 和 文 要 旨

研究科・専攻	電気通信大学大学院電気通信学研究科 システム工学専攻 博士前期課程		
氏 名	三ツ木 聡	学籍番号	0935032
論 文 題 目	管理要因に着目した根本原因分析		
<p>要 旨</p> <p>近年、技術の高度化に伴い機器・製品の信頼性は向上している。しかし一方で、人間や組織の仕組み・文化が深く関わる事故、所謂ヒューマンファクターに起因する事故が多く報じられるようになり、この種の事故への注目が高まっている。</p> <p>このような事故に対する再発防止対策として、「以後しっかりやるようにする」といった言葉だけによる注意力を高める対策に終結してしまうことも少なくない。しかし、“人はエラーをするもの(To err is human)”であり、上記のような言葉だけによる対策では、事故を減らすことはできない。こうした組織的要因による事故の発生を低減するためには、組織が“人はエラーをするもの”と認識したうえで、人の起こすエラーによってトラブルが発生しないよう、組織の仕組み等の根本原因に対して対策を施すことが必要である。</p> <p>本研究では、こうした事故への未然防止を効果的なものにするために具体的な事例からトラブルの分類を行い、分類ごとにトラブルの要因となった根本原因を抽出する手法として、「トラブルの分類による対策立案フロー」を利用し、それによって分析された要因から更に自工程完結の視点を用いて、抽出された要因から根本原因を導き出す手法を提案する。</p> <p>自工程完結とは「担当者自身が仕事を行うその場で、良し悪しを判断し、その場で対処する」状態を中心概念としている。そのため、プラントの運用時においても1つ1つの作業における作業結果の良し悪しを正確に判断できる仕組みを実現出来れば、作業ミスがなくなると考えられるゆえ、根本原因を特定するのに有用となる。</p> <p>また今回、提案した手法により、事例から導き出した根本原因を自工程完結の視点で更に検討した結果、自工程完結に必要な条件である「自らの果たすべき役割を正しく認識すること」、「アウトプット（成果物）の明確化」、「必要なインプット情報の明確化」の3つの条件が欠けている根本原因が多いことがわかった。このことから組織的要因による事故の発生を低減するためにはまず、この3点を満たせるように着目した対策を実施することが重要と考えられた。</p>			